

■9. 講演「スマート・ガーデンシティへの挑戦～つくば環境スタイルの計画と実践～」

屋代 知行 氏（つくば市 企画部 企画課 主任）

(2) 筑波研究学園都市（つくば市）の概要

つくば市は研究機関が多数集結した「研究学園都市」であり、低炭素社会実現に向けてこの特色を活かした取り組みを行っています。

また、2011年3月、つくば市長は「スマート・ガーデンシティ」構想を発表しました。これは、「田園環境と都市環境とが調和した田園都市」、「知的集積を生かして社会的課題に対応する研究学園都市」、「経済の成長が持続し、世界で活躍する市民がはぐくまれる都市」を目指した市政を行うという意思表示です。

(3) つくば節電スタイル～tkb_kkstyle～

つくば市の今夏（2011年夏）の節電の取り組みを紹介します。つくば市は特定被災自治体となっており、計画停電などは免除されていました。しかし、節電の取り組みは当然やるべきだという意識があり、様々な取り組みを行いましたのでご紹介します。

まずはキックオフとして、6月に「つくば市節電大会」を開催しました。企業、行政、大学、児童、市民全員が会して、それぞれの節電目標宣言を行いました。

家庭では、市がゴーヤの苗を7500株配布してグリーンカーテンによる暑さ対策に活用していただきました。このゴーヤの苗は61.5%の方が効果を実感されたということで、非常に好評でした。市役所では、窓に断熱フィルムを貼ったり、空調運転をガスに切り替えたりして前年比26.43%の電力消費削減ができました。市内の研究機関では電力ピーク時にNAS電池で蓄電した電力を使用するという取り組みも行われました。

つくば市は、7月から停電防止連絡ネットワークに参加しています。警報が出されたときの市民への伝達媒体はtwitterを利用しました。現在（2011年11月時点）、ネットワークは休止されていますが、つくば市ではその後も継続してtwitterを利用し、環境というテーマで節電豆知識やクイズを配信しています。一時的な節電に終わらないよう、継続的な啓発が大切だと思います。

(4) つくば環境スタイル～低炭素社会～

つくば市では、2030年までにCO2排出を50%削減することを目標として取り組んでいます。

その取り組みの中の1つで、2011年4月から物質材料研究機構と協力して都市鉱山からのレアメタル回収プロジェクトを始めました。資源価格が高騰していく中で、日本の強みである「都市鉱山」に着目していくことが、先進国の責務ではないかとも考えます。しかしこのシステム自体がまだ固まっておらず、回収・解体・売るという単調なサイクルとなってしまっています。今後、市民、行政、リサイクル業者がうまく協働できる仕組み作りが必要だと思います。

(5) 新成長戦略と筑波研究学園都市の責務

つくば市は研究学園都市としての責務があります。その中でも産学官連携が大事になります。そこで、筑波大学にグローバル・イノベーション推進機構というプラットフォームを設置し、環境、医療、ロボットなどの研究に各機関が協力して推進する場を設けています。現在（2011年11月時点）、政府の国際総合戦略特区の指定に申請しておりますが、つくばにとどまらず日本社会を牽引する1つとして、産学官一丸となって取り組んでいきます。

(6) スマート・ガーデンシティへの挑戦

スマート・ガーデンシティに向けた取り組みをご紹介します。

つくば市は研究機関が多く、実験などから排出されるCO₂があるため、どうしても環境負荷の結果は悪く出てしまいます。そこで、研究成果の実証実験を市内で行い、その有用性を定量化してカーボンオフセット制度にのせるというような制度は有効であると思いますので、積極的に検討していきたいと思います。筑波研究学園都市の固有の課題ですが、制度化には多くの壁があると思うので、プラチナネットワークの皆さんと協力しながら実現につなげたいと思います。

また、TX沿線の北千住や秋葉原といった都市とも連携したスマート社会の構築も今後の社会には必要だと思い、前向きに検討していきたいです。

そして何より、市民そのものが環境意識を高めなければならないと考えています。そのために節電大会などの小さなことから、低炭素社会を作っていきたいと思います。

以上